

16. 第10回 MSJ-SI (2017年度) 開催報告書

- 第10回日本数学会季期研究所「岩澤理論」(The 10th MSJ-SI “Iwasawa Theory”)
- 日時: 2017年7月19日(水)~28日(金)
- 場所: 東京大学数理科学研究科大講義室
- 組織委員: John Coates (Cambridge), Ralph Greenberg (Washington), Cornelius Greither (München), Thong Nguyen Quang Do (Besancon), 栗原将人 (委員長・慶應義塾大学)
- 現地組織委員: 栗原将人(慶應義塾大学), 坂内健一(慶應義塾大学), 辻雄(東京大学)
- 参加者総数: 236名(内, 海外15ヶ国から98名) 国別の内訳はアルゼンチン1名, カナダ4名, 中国9名, フランス8名, ドイツ9名, イスラエル1名, イタリア2名, 韓国13名, パキスタン1名, ポーランド2名, スペイン3名, 台湾5名, トルコ1名, イギリス14名, アメリカ合衆国25名, 日本138名
- <http://www.iwasawa2017.com/>
- 概要: 7月19日から22日までは, Preparatory Lecture Series として4つの集中講義(講演者は5名)が, 24日から28日までは本会議として19の講演が行われました. 前半の Preparatory Lecture Series の段階で既に126名の参加者があり, 最初から大変な盛況でした. 日本の参加者は数日間の短い参加者もおりましたが, 外国からの参加者98名は, ほぼ全員が本会議に全日程参加しておりました. したがって, 会場は外国人の方が多きときもあり, 外国にいるような錯覚を覚えることもありました. 内容的には, Preparatory Lecture Series に関しては, 新しい Euler 系の構成に関するわかりやすい講演 (Loeffler による) があるなど若手研究者に十分配慮したものでしたし, 本会議では Gross-Stark 予想の解決とその精密化 (Dasgupta, Kakde による講演), 通常還元を持たない場合も含めた保型形式の岩澤主予想の(多くの場合の)解決 (Skinner, Wan

による講演) など多くのすばらしい講演があり, 全体として大変充実した会となりました. 研究集会終了後, 多くの参加者からこの研究集会を非常に高く評価して頂き, 岩澤健吉先生の生誕百周年を祝うにふさわしい研究集会になったと感じております.

- 講演者: Shinichi Kobayashi (Kyushu), Masato Kurihara (Keio), David Loeffler (Warwick), Andreas Nickel (Duisburg-Essen), Takamichi Sano (Osaka City) (以上 Preparatory Lecture Series), Werner Bley (LMU München), David Burns (King's College London), Kazim Buyukboduk (Koc Istanbul), John Coates (Cambridge), Henri Darmon (McGill), Samit Dasgupta (UC Santa Cruz), Ralph Greenberg (Washington), Haruzo Hida (UCLA), Ming-Lun Hsieh (Academia Sinica, Taiwan), Mahesh Kakde (King's College London), Takenori Kataoka (University of Tokyo), Kazuya Kato (Chicago), Yasushi Mizusawa (Nagoya Institute of Technology), Tadashi Ochiai (Osaka), Karl Rubin (UC Irvine), Ehud de Shalit (Hebrew Univ), Christopher Skinner (Princeton), Otmar Venjakob (Heidelberg), Preston Wake (UCLA), Xin Wan (Chinese Academy of Science), Sarah Zerbes (UCL)
- 報告集: ASPM から出版予定.
(栗原将人 記)